



浜家連ニュース

第149号

平成25年(2013)年1月1日発行

○発行 特定非営利活動法人 横浜市精神障害者家族連合会
〒222-0035 横浜市港北区鳥山町1752番地
障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール3F
電話 045(548)4816 FAX045(548)4836

《巻頭言》 年頭に想う 理事長 米倉 令二よしづ



2013年の幕あけです。昨年12月16日、日本列島を大風が吹き抜けました。3年前の夏の終り、やはり大風が吹きました。その吹きもどしなののでしょうか。私は、人の行動には、必ずわけがある、と思っています。大風のもたらしたものは、一人ひとりのわけのある行動の積み重ねだったのでしょ

う。さて、すでに助走に入っていますが、この4月から「障害者自立支援法」に代わる「障害者総合支援法」が始動します。3年半前の大風の直後生まれた障がい者制度改革推進本部などのもで行われた一連の改革運動は、ねじれ国会のあと失速し、結局、「障害者総合支援法」に落ち着きました。

この法律の趣旨は、障がい者制度改革推進本部等における検討を踏まえて、地域社会における共生の実現に向けて、障害福祉サービスの充実等障害者の日常生活および社会生活を総合的に支援するため、新たな障害保健福祉施策を講ずるものとする、です。落ち着いて読まないという意味が分りませんね。お屠蘇でもやりながら、ごゆっくりどうぞ。

ついでに難物をもう一つ、法律に掲げられた「基本理念(要約)」です。

全ての国民が、障害の有無にかかわらず、等しく基本的人権を享有するかけがえのない個人として尊重されるものであるとの理念にのっとり、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重しあいながら共生する社会を実現するため、全ての障害者がどこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないよう総合的かつ計画的な支援が行われなくてはならない。

お屠蘇も醒めそうな一文ですが、翻訳すると……障害者も健常者も、人間として平等に、好きな場所で、好きな人と生活できる社会をめざしましょう……ということでしょうか。浜家連は、今年もこの理念に一步でも二歩でも近づく動きをしたいと思っています。

さてもう一つ、懸案の福祉パスについてです。市は利用料一律 3,200 円を 1,800 円に引き下げる案を出しました。私は12月18・19日、市会常任委員会を傍聴しました。議員さんからは「市の提案は障害者の生活実態を充分把握した上でのものになっていない」「さらに慎重に審査をつづけるべき」との意見が多く、採決はせず、継続審査とすることを全会一致で決めました。浜家連は「無料パスは行動を広げるよりどころ、低収入、差別処遇の実態から考えても、たとえ 1,800 円が 500 円になっても、有料化に同意できない」という方針です。明るくがんばりましょう！

☀️☀️☀️ 会長さんの新年の抱負 (会長さんに新年の抱負を語ってもらいました)☀️☀️☀️

紙面の都合で各単会さんの出だしの「新年のご挨拶、明けましておめでとうございます。」終わりの「今年もよろしくお願いいたします。」の言葉は省略しました。(敬称略)

のぞみ 田中 博	精神疾患で悩んでいらっしゃるのに、医療につながらない方々がまだまだ多いと聞いております。本年は一人でも多く医療につながることを希望して活動したいと考えています。
-------------	--

わかば会 植木 秀子	わかば会の会長となり、会員の皆様に背中を押していただきながらここまでできました。懇談会、ランチで・おしゃべり(当事者と昼食を作る)、福祉バスを利用して施設見学、バスハイクを行いました。バスハイクは茨城県那珂湊おさかな市場行って微力ですが、復興支援への思いを込めて沢山買い物をしました。今年は遅ればせながら家族による学習会を行ないます。
もみじ会 相澤 清	本年も浜家連の皆様と連帯し、障がい者の生活と権利の向上のため努力いたしたいと思えます。昨年11月当会の公開講座『活用しよう今ある制度や社会資源を』の開催について、浜家連傘下の皆様のご協力で成功させていただきました。遅ればせながら御礼申し上げます。
みなと会 柏木 彰	今年の3月に三障害一体サービス提供施設「みはらしポンテ」が新山下地区にオープンし、私たちの待望の「生活支援センター」のサービスが始まります。 これで平成11年に神奈川区に第1号の生活支援センターが誕生してから13年かかってようやく横浜市全区にセンターができたこととなります。この間の障害者を取り巻く社会環境・諸制度の変化は著しく、この機会に生活支援センターの在り方を根本的に見直す機運も出て来ています。これまでしんがりを務めてきた「みなと会」も今度は18区の先頭に立って新しい生活支援センター(精神障害者と家族にとって真の拠りどころ)の実現を目指していきたくて考えています。 第一歩として、生活支援センターのスタッフと家族会の意志疎通をはかり、相互理解を深め、早い時期に家族会員と当事者の多く(出来れば全員が)が生活支援センターと何らかの関係ができることを今年の目標としたい。
みなみ会 加藤 貞子	24年4月からみなみ会の家族会の会長を引き受けて、手探りの状態でしたが、会員の皆様の温かいご支援のおかげで、運営してきましたが、今年は次のように取り組んでいきたいと思えます。 ① 毎月の定例会にもっと多くの会員さんに参加してもらうにはどのような工夫や企画があれば良いか役員皆んなで協力して話し合い、知恵を出し合って魅力ある「みなみ会」にしていきたい。 ② 南区生活支援センターをもっと活用していきたい。休館日を利用させてもらったり、所長と相談しながら出来ることがあれば連携してやっていきたい。 ③ Cブロックの会長さんに呼びかけ共同で“親父の会”を設けてぎっくばらんな懇親会などを定期的に実践できればいいな！ ④ 今年1月からスタートする“家族による家族学習会”を楽しみながら参加者全員が「参加して良かった」と思えるようにしたいと思うし、それで入会者が出れば万歳！ ⑤ 会員のパイプ役である毎月発行の“みなみ会”便りを会員が協力して充実させていきたい。
あいの会 細田 与一	役員の間で検討中です。
たちばな会 田口 圭子	新年にあたり、たちばな会のことを思いめぐらしてみると、去年は9、10月に初めて挑戦してみた家族による家族学習会のことが一番印象に残っています。6人の担当者が手をあげ、浜家連での勉強会を手始めに、それぞれが得意とすることを受け持ち、何度も話し合いを重ね、参加者を募り、11名の参加者と共に第一回目を終えた時は、次への期待が大きくなっていました。参加者とも回を重ねる毎に親しさを増し、苦勞より楽しみが大きくなっていきました。参加された方に「担当者が仲が良くて居心地が良かった。」と言われたのは嬉しかったです。勉強会でお聞きした言葉「参加者に劣らず担当者が力をもらい、癒される。」というのは本当でした。今年はBブロックフォーラムの担当区になっており、たちばな会の持ち味のチームワークの良さを発揮できると信じて、時期、内容となごみ会の皆さんとふくらませていきたいと思っています
あけぼの会 岡林 郁子	昨年はBブロックフォーラムの担当区として、忙しい1年でしたが、大勢の方の力で、旭公会堂を満員にする事が出来、感謝で一杯です。今年は「家族による家族学習会」を開催し、大成功させたいと思っています。 旭区は行政、関係機関、当事者、家族が一緒になって、様々な事業を行っています。年々家族の力が期待され、役割も多くなって来ているようです。バザー、訪問活動、たまり場、関係機関の役員等々。さらに、新しい試みとして始まった「二俣川ハウス」にも、家族が大勢サポートをしています。このような活動に参加している方々は、忙しいけれど明るく活き活きとしていきます。 家族会の原点は、家族が元気になる事だと思えます。そのためにも、定例会はマンネリになら

	<p>ないよう、皆で話し合い、新しい事も取り入れていきたい。役員は、私も含めて高齢化していますので、新しい人を募集中です。これからも「は〜と・ねつと・あさひ」の1員として旭区精神保健福祉の発展のために頑張ります。</p>
<p>なぎさ会 河村良昭</p>	<p>年初2. 16磯子区でのCブロックフォーラムを成功裡に終わらせ、特に地域の出席者が多く、その後のなぎさ会会員増につながることを願って現会員の総力を結集したいと考えています。勿論本部と他の三区の力添えも必須です。さて講師の加瀬先生は11月の精神障害者リハビリ学会の実行委員長でまた横浜メンタルサービスネットワークに係わっておられるので幅広い内容の講義になると思います。同じく11月末に磯子区生活支援センター運営委員会が開催され関連組織体に加え自治会、町内会、民生委員会の方々にこのフォーラム周知をお願いしたので多数の出席者が期待できそうです。</p>
<p>あおぞら会 石塚 佑之輔</p>	<p>この選挙で大きく気運が変わってきて、景気が良くなり税金が増えて福祉に廻るお金が多くなればと期待する所ですがそれだけでは何ともならない所がこの障害の一番難しいところですね。この所を誰が解決するか？哲学、宗教、どれも解決は無理、iPS細胞もまだまだ先、模索の中に浜家連の活動と福祉政策がある。人間年を重ねると悲観的になりますが、老化(頭、身体)の衰えは如何ともなし難く、それでも後に残る者の幸せを念じています。</p> <p>会としては、例年通り1月19日(土)に会員、当事者、が大勢集い新年会を皮切りに毎月の話合いの場、勉強会の例会、日帰り旅行、区民の集いへのバザーの出店等に積極的に参加していきたいと思っております。家族による学習会を実施しましたので、これを具体的に実践することにして、例会で会員が親しく会話出来る場所を継続していきたいと思っております。</p>
<p>白梅会 加藤 浩</p>	<p>昨年港北区内で残念な事件がありました。その背景にはカオスに精神疾患者がいることを他人に知られないようにする現代日本人の本能があると思います。無理もありません。国の精神保健政策が患者の介助の大部分を家族に依存する慣習を作ってきたからです。その結果家族は様々な負担を強いられてきました。ここ数年、精神保健福祉に改善が行なわれ、社会資源も充実し、又数多くの普及啓発活動が行なわれてきましたが、見過ごしている家族も多数います。ただ忍耐を積み重ねるだけでは限界があります。“人に相談する”勇気があれば現状を改善することは可能です。今必要なのは「100の忍耐より1つの勇気」です。相談すれば100の忍耐が50にも10にも軽減されます。特に家族の精神的負担が軽くなれば、当事者にも良い影響を与えます。マイナスのスパイラルからプラスのスパイラルに転換しましょう。それを可能にするのは家族の勇気です。港北区には生活支援センタースタッフ、ボランティア、家族会員有志が主催するサロンが活動支援センターやケアプラザで開かれています。まず近くのサロンに顔を出してみませんか。家族会会員の皆様はすでに“人に相談する”勇気を持たれた方々です。ご近所に希望者がいましたら是非誘ってみてください。</p>
<p>みどり会 高木 光子</p>	<p>みどり会は会員が減少して今現在 20 名位です。今年は会員を増やす努力をしたいと思っています。何か楽しい企画を立てようかと考えています。</p>
<p>あおば会 鴨志田 容子</p>	<p>私の今年の抱負は、次の5つの願いがかなうよう皆さんと団結して頑張ることです。</p> <p>①会の財産である会員を、区のワーカーさんや、生活支援センターの皆さんのご協力をえて「100名以上」にしたいと思います。悩んでいる家族に、先ず一人でも多く繋がっていただきたいと思っています。</p> <p>②当事者や家族へ、多職種チーム(医者、看護師、ソーシャルワーカー相談員等)が出向いて来て支援して貰える「ステーション」を青葉区にも作って頂きたいことです。</p> <p>会員さんの若い息子さんでお医者にもいかず、昼夜逆転していて、誰とも合わせないで困っている、大学はようやくあきらめて退学手続きをとった、と云う方がいます。何とかしてあげたいのですが、「ワーカーさんに相談して」としか云えません。もどかしいかぎりです。</p> <p>③カゼなどの合併症の時、早く安心して診てもらったり、入院出来る病院が近くに増えることです。</p> <p>④少し元気な当事者の働きたい気持ちに伝えてあげたいと思います。</p> <p>⑤私たち役員の方から会員の皆さんに、定期的に「お元気ですか」と「御用聞きの電話」をかけることを試してみたいと思います。いずれにしても先ず私たち親が健康でなければ出来ませんので、皆さん健康に気を付けましょう。</p>
<p>すずらん会</p>	<p>家族も社会性を持つ！</p>

<p>稲葉定男</p>	<p>高齢化している私たち家族は、戦前の3世代家族と違って今は、一世帯2、5人家族です。病気があっても、生活苦があっても、地域で生活するには色々な社会資源と結びついた生き方ができることが良いことと思います。</p> <p>今年は、社会資源とつながり「話ができる人と仲良しになる」年にしたいと思います。家族会のみんなが、当事者のみんなが地域施設の仲良しの人と出会う年になりたい。</p>
<p>若杉会 大原 楓二</p>	<p>戸塚区家族会「若杉会」は正会員 55 名で今年も元気に活動を行います。特に今年はDブロックのフォーラム開催担当となります。成果ある大会に向け会員一同努力いたしますので関係者の皆様のご協力をどうか宜しくお願い申し上げます。</p> <p>さて選挙の結果をみていろいろ考えさせられるものがあります。自民党の主張する「生活保護 1割カット」を始め「公助」より「自助」の姿勢が強まるのは間違いないでしょう。「維新の会」に至っては社会保障費を減らすと言っていますから私見ですが「応益負担」「応能負担」の声が強まり「情」より「理」の住みにくい世が来るのではないかと恐れます。社会保障費が高齢化に伴い毎年1兆円近く増え続けると聞くと原発やTPPより社会保障のありかたが国民会議の議論と併せ早急に問われるべき問題ではないでしょうか？ 保障には負担が伴う以上若年層にもよく考えてもらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障の水準を維持又は高める為に高負担を受け入れるか、 2. 現状の負担で水準のジリ貧化を受容するか、の選択が次の選挙の争点となるのではないのでしょうか。
<p>さかえ会 宮川 玲子</p>	<p>昨年は、Dブロックのフォーラムの当番区で忙しかったので、家族学習会はやりませんでした。今年まだやってない区が優先なので、予算上空きがあったら、是非実施したいと思います。家族学習会は新しい会員を募る意味でも、会員同志の結束を高める意味でも大変有意義な学習会なので、是非実施したいと思います。</p> <p>中学校での「心の体験学習」は昨年栄区で1校実施したので、今年はこの中学校でも、年間計画に入れてもらうように働きかけていきたいと思っています。</p> <p>こころの病は思春期に発病することが多いので、誰もが学習して、知っておくことが大事です。また偏見・差別解消のためにも、家族会で取り組む必要があります。</p>
<p>いずみ会 笹本 秀夫</p>	<p>私たちは今までやって来た、家族会活動を大切にしながら、新年を迎えたこの機に改めてわが息子、娘を見詰め直し、彼らの回復とし幸せに向けて出来ることを探し、小さい1歩を踏み出したいと思っています。</p>
<p>あじさいの会 副会長 佐藤 文子</p>	<p>瀬谷区あじさいの会では、現在会員が百数名の大所帯になりました。これは嬉しいことなのかも知れませんが、一方で個々の家族の方…主に家族会例会にお見えにならないご家族の方が、いまどのような状況になっているのか、充分把握出来ないことが気にかかります。</p> <p>会員の方は出来れば年に1～2回は、定例会に参加され、お病気の当事者の困りごと、悩み、ご自身の体調などお話しにいらして頂きたいと思っています。</p> <p>定例会では、ある悩みを話されると、必ずや同じような状況で困っておられる方がいるものです。そして、周りで聞いている方からも、ご自分の体験をもとにアドバイスを頂いたり、問題を解決するためのすべを出し合ったりします。なぜか、定例会から帰ってくると胸の中がすっきりとしてくるものです。今年は少しでも多くの方が、定例会に足を運び、心を開いて語り合い、元気になって帰って頂けたらと思っています。</p>

◎ ◎ ◎ 学習会を終了して たちばな会 会長 田口 圭子 ◎ ◎ ◎

実施期間 平成24年9月28日～10月26日に行なわれました。実施した後の感想文を掲載しますので、これからの予定の単会、既に実施済みの単会さんも普段の例会に生かせるように参考にして、いただきたいと思います。(事務局追記)

1回～5回を振り返る 参加者の皆さんから感想

- ・妻に任せていたが、反省して自分なりに取り組む。
- ・参加して良かった。私自身が救われた。
- ・計画してくださった方に感謝。楽しく参加出来た。前向きに行きたい。





- ・自分が変わらなくては～明るく元気にやっっていこう。
- ・自分より大変な方がおられ、心が落ち着き余裕を持って対処したい。
- ・心が健康でいることの大切さに気づき、封じていた俳句を始めた。
- ・卑屈になっている自分があったが、とても楽になった。
- ・企画が良かった。歌を唄うなど、とても良かった。
- ・出てきて参加することが大切。親も勉強、娘が教えてくれている事に気づく。
- ・親にも責任があるので、感謝しなくてははいけない。

終了時 田口たちばな会 会長挨拶

- ・同窓会計画のお知らせ
- ・おもてなしの手芸作品を参加者にプレゼント
- ・担当者が廊下に一列に並んで、参加者に終了の感謝をして笑顔でお見送りをしました。

担当者の振り返り

- ・参加者が良く話してくれてよかった。
- ・自殺の話になると、経験不足で話が出来なかった。
- ・1回～5回、同じような話になってしまった。
- ・回の前半は中々褒めてあげられなかったが、少し慣れたと思うが、タイミングが難しい。
- ・参加者は気持ちを十分訴えられ、自然の形で共感できた。
- ・心のチェックリストの2回と5回の変化は少なかったが、話は明るくなった。
- ・毎週の学習会は大変と思ったが、参加者からは良かったの声が上がり好評であった。

アドバイザーから 浜家連常任理事 北谷 博

- ・11時の打合せから準備が良く、担当者の連携が良い。
- ・横道にそれず、リーダー、コリーダー振って協力していた。
- ・参加者の発言に、よく担当者がフォローしていた。
- ・さりげなく「家族会」のアピールをしていた。戸塚区の場合は各参加者に担当者を個別に決めてフォローした。同窓会参加、家族会加入については8名中3名加入等で好結果が得られましたので、ご参考までにご披露します。

横浜市健康福祉局福祉課地域活動支援係 富士原靖子さん(見学者)

- ・雰囲気明るく良かった。
- ・日頃の悩みは多々あると思うが、皆さん共感しているのを見てとても良かった。
- ・参加者の方はこの企画をどこから知って参加されたか？
- ・1週間の1回の会は親しみがあって良かった。

⇄⇄⇄⇄⇄ みんなねっと茨城大会参加報告Ⅱ ⇄⇄⇄⇄⇄

第5分科会「当事者と自立」部会報告 あおば会 鷹野 薫

「支えられて自立生活」当事者からの発表

茨城県、社福法人 はまぎくの会、ひだまり会 の皆様9名。

H氏 30代男性、強迫神経症、地活センター、自宅で一人暮らし。

母親と2人で暮らしをしていたが、母親が平成17年突然入院してしまった。包丁持てず、お米もとげず、料理も出来ず、ゴミだし出来ず、トイレ、お風呂の掃除も出来ず、途方にくれた。

幸い1・5ヶ月で退院してくれた。この1・5ヶ月でところがたくましくなり、母親への感謝の気持ちも育った。現在また母入院中だが、今は家事も全て出来る。

・・教訓・・母親が元氣の内に、一人になったつもりで家事を勉強しておくこと。

・・地活の助け・・料理、掃除などを学ぶ。

O氏 30代男性 統合失調症、アルバイト、作業所、GHで男性6名と共同生活。

GHへは退院時病院で紹介、「他の入居者と仲良く出来るか」心配だったが、やればなんとかなった。お弁当屋のバイトと作業所で月7万円から10万円もらう。



将来はGHでいろいろ学んで一人暮らしをしたい。親に依存したくないから。

・・教訓・・親は自分の生活に集中して欲しい、その方が自分が楽、親が元気の内にいろいろ体験させたら良い。いろいろ心配、不安はあるが、近くに仲間がいて相談出来るから大丈夫。

・・GHでおよそ12万円程度で皆さんくらしている・・

Sさん 女性、作業所、GHに女性6年半生活。

15年前父を失い、母と2人で暮らしていたが、母も7年前に亡くなった。

夜さびしくなり、入院し、退院後GHへ。風呂掃除が難しい。家計簿が合わなくて困る。毎日大変だが、職員と仲間の支えがあるので、今は困っていない。

・・教訓・・同じ障害の仲間と一緒にいるので安心。

A氏 50代男性、作業所、自宅からAPで一人暮らし。

20年前会社勤め、夜間歩くようになり退社、自衛隊、自宅でひきこもり。

平成11年母死亡、その後服薬管理もして1人暮らし、生保に移行。掃除出来ないの、週1から3回ヘルパーさんをお願いしている。平成23年胃がんが見つかり、更に井戸が壊れたので、APへ引っ越し。作業所の職員が探してくれた。ありがたい。手術をして、現在禁煙中。

・・教訓・・仲間で支えでなんとかなる。

Gさん 女性、作業所で喫茶店の仕事、自宅。

ホットサンドが得意。家で母の手伝いと猫の世話、作業所で充実している。家族のこと、将来のことで悩んでいるが、職員、仲間と相談して解決している。

・・教訓・・待っていては何も出来ない、経験すれば何でも役立つ。

・・親へ・・今子供中心の生活でも何時か子供の作った食事を食べられる日が来る時が来る、光がさす日が来ると信じて頑張ってください。

私は「サンドイッチの日」、「パスタの日」を設けて家族に喜ばれている。

I氏 男性、作業所、男性4人とGH。

平成24年2月からGHへ。その前はひきこもり。母もGHに入っている、月1

回合いに行っている。料理が出来るので食事の当番の時活躍している。

とにかくGHの仲間と仲良く暮らして行きたい。

T氏 男性、喫茶店アルバイト、作業所、6名のGHで生活。今年の5月にGHに入所

するまで、てんかん発作、入院、家族の事で本当に苦しんだ。

痩せたり、太ったり大変だった。10年前に父死亡、母と二人になったが平成1

8年母が老人施設に入り、一人になった。頑張っていたが、15日間で30万円

使ってしまい、もう無理だと思い、GHに入った。GHに入って朝夕食事がきちんととれ、話相手も出来て楽になった

昨年3月11日は上野動物園に遊びに行っていた。帰れなくなり、東京文化会館で泊まった。

・・教訓・・ 自立への道は厳しい、なんでも楽し行きたい。一人暮らしは考えない。GHのメンバーは私の新しい家族と考える。



K氏 30代男性、統合失調症、理解のある50名の会社で就労2年間続いている。
20歳までシンナー、パチンコなどの依存症で苦しみ、ダルクの仲間に救われた。
ダルクでボランティアを10年してうつ病化し、GHを紹介されて、5年間
住みこの7月APで一人暮らしへ。油断するとすぐゴミ屋敷になってしまう。
仕事は楽ではないが、自信がついて来た。地域のキリスト教会と職場の先輩に相
談出来る。

**..教訓..親の信頼を失くしていたが、別に生活するようになって親のことも
解った、今は月に1回自宅に帰り、信頼も得て来た。**

「本人が何かに挑戦する時は止めないで応援して下さい、やれば出来る！」

Iさん 40歳代女性。作業所、自宅で家族と生活。ピアスタッフが目標
今の自立は親離れしてなくて、弱い自立であるが、経済的にGHは無理。
食べられることが大切。

..親へ..「認めて欲しい、褒めて欲しい、自信に結びつく。」

感想 「親が突然入院したり、亡くなったりして一人になってしまった時、どうしたか」

日頃から「繋がる場所、相談する人」「仲間」が大切。

親離れのコツ.....台所の掃除、風呂の掃除など小さな役割分担で。

兄弟はなれのコツ..お互いの生活を大切に、小さなことを補いあって。



∞∞∞よこはま保健医療プラン2013(素案)について∞∞∞

横浜市は2013年の上記が出来上がり、市民から意見を募集することになりました。

以下基本的な考え方と基本理念だけ掲載します。詳しい内容については事務局へお問い合わせください。

I プランの基本的な考え方

1 計画策定の趣旨と位置づけについて

- 平成24年3月、国において医療法施行規則や医療提供体制の確保に関する基本方針が改正され、精神疾患や在宅医療に関する医療連携体制を医療計画に記載することとされました。
- こうした動きや、いわゆる2025年問題に象徴されるように今後急速な高齢化の進展など、保健医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、横浜市の実情に即した質の高い効率的な保健医療体制を整備するため、横浜市の保健医療分野を中心とした施策を総合的に体系づけた中期的な指針として、「よこはま保健医療プラン2013」を策定することにしました。
- 平成25年(2103)年度を初年度とし、平成29年(2019)年度までの5年間を計画期間とします。

2 基本理念

- 市民一人ひとり自らの健康に向き合い、主体的かつ積極的に保健医療に関わり、障害を通じて心身ともに健やかに暮らすことができる社会の実現に向けて、保健・医療・福祉の様々な担い手の連携・協働を進め、市民中心の保健医療の仕組み作りを推進します。
- 「2025年問題」に象徴されるように、今後10数年間で高齢化が一層進展し、後期高齢者数が大幅かつ急速に増加することが見込まれている横浜市において、市民一人ひとりが安心して暮らせる社会の実現に向け、取り組むべき施策を推進します。

意見応募方法 パソコンで「横浜市」を検索「問い合わせ・意見募集」の項目をクリックすると

「よこはま保健福祉医療プラン」の欄がありますので、そこをクリックして募集ページに進んでください。

募集期間 平成24年12月3日(月)から平成25年1月15日(火)まで

※「1月4日(金)」から募集期間を延長 問い合わせは 担当 小池：清田さんです。

健康福祉局医療政策課電話：045-671-2972 FAX：045-664-3851 へお願いします。

イベントのお知らせ

§1 Cブロックフォーラムについて

日 時 平成25年2月16日(土) 13:45～16:00(13:15開場)

会 場 磯子公会堂 定員 500名

参加費 無 料

講 演 演 題 統合失調症の最新の治療～リハビリテーションなど～

講 師 加瀬 昭彦 先生 (横浜舞岡病院 院長)

講師の加瀬昭彦先生は、戸塚区にある大規模な精神科病院「横浜舞岡病院」の院長で先日横須賀で行なわれた「精神科リハビリテーション学会(参加報告は浜家連ニュース12月号で掲載済みです)でも実行委員長として活躍なさった大変アクティブな先生です。なぎさ会が当番単会ですので、会員さんのご協力をよろしくお願いします。(会長河村)

§2 家族のための「うつ病対応」講座

日 時 平成25年2月2日(土) 13:30～16:00 (開場13:00)

場 所 横浜市健康福祉総合センター 8階会議室

対 象 横浜市に在住で「うつ病」と診断を受け、治療中の方の配偶者又は親御様 定員 100名(先着順) 電話で申し込んでください。

内 容 「うつ病」の方への家族としての接し方

講 師 春日 未歩子 (株)ジャパンEAPシステムズ統括スーパーバイザー
精神保健福祉士)

申込み 申込み開始日 25年1月15日(火) 平日 9:00～17:00

申込み先 横浜市こころの健康相談センター TEL 045-671-4455

§3 Aブロックフォーラム

日 時 平成25年7月20日(土) 詳細は検討中です。

会 場 緑区公会堂

講 師 夏苺 郁子先生 夏苺先生再登場です。ご期待ください。

インタビュー記事が掲載されます。1月10日頃発売予定です。

書店やコンビニにて「PHPスペシャル」という雑誌(380円)が、発売されますが、その中に夏苺先生のインタビューが載ります。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。新しい年をいかがお迎えでしょうか。昨年末には衆議院総選挙があつて、自民党が圧勝しました。民主党の3年3ヶ月の実績をみて、有権者も前に進まない政治にかなりイライラを募らせた結果のような気がします。願わくは民主党で出来なかったことを学習して、東日本大震災から丸2年が経とうとしていますが、まだまだ復興が進んでいません。新政権が目に見える形で進めてくれるといいなと思います。

1月号は会長さんの新年の抱負を語っていただきました。お忙しいところ原稿を締め切りに間に合わせていただきまして、感謝申し上げます。それぞれ一生懸命に取り組む様子が伺えて良かったです。

単会同士で協力していくことも有りだと思いますので、今回の記事を参考に、お互いの単会訪問等をして、活性化に繋がれば浜家連の益々の発展が期待できるのではないかと思います。

1月号は、ご覧の通りニュース本体が8ページと文芸作品のページがあつて増えましたので、お正月休みにゆっくり読んでいただきますようお願いします。

今年も事務局一同頑張つてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。